

## 公民連携プラットフォーム・京都スタジアム（仮称）分科会（第3回）開催概要

場所：京都リサーチパーク 1号館 4階サイエンスホール

日時：平成30年3月19日（月）13:30～16:15

第3回テーマ：『スタジアムを核としたまちづくりと京都スタジアムの運営について』

### <プログラム>

#### ■開会あいさつ

#### 第1部

##### ■スタジアムと昨今のスポーツビジネス

同志社大学 スポーツ健康科学部 助教 庄子博人 氏

##### ■鹿島スタジアムにおけるスタジアム運営の取り組み

茨城県立カシマサッカースタジアム副所長 兼 事業部スタジアムグループ副グループ長 萩原智行 氏

##### ■京都スタジアムを含む周辺エリアにおけるエリアマネジメント

龍谷大学 政策学部 教授 青山公三 氏

##### ■京都スタジアムの運営計画について

京都府文化スポーツ部 文化・スポーツ施設整備担当 理事 山本敏広 氏

#### 第2部

##### ■パネルディスカッション

「スタジアムを核としたまちづくりと今後の運営計画について」

##### パネリスト

同志社大学 スポーツ健康科学部 助教 庄子博人 氏

茨城県立カシマサッカースタジアム副所長 兼 事業部スタジアムグループ副グループ長 萩原智行 氏

龍谷大学 政策学部 教授 青山公三 氏

京都府文化スポーツ部 文化・スポーツ施設整備担当 理事 山本敏広 氏

##### コーディネーター

PwC アドバイザリー合同会社 片山竜 他

## <開催結果>

平成30年3月19日に京都リサーチパーク 1号館4階サイエンスホール（京都府京都市）で、公民連携プラットフォーム・京都スタジアム（仮称）分科会（第3回）を開催いたしました。当日は、約57企業・団体より86名、行政関係者等27名の合計113名が参加されました。

第1部のプレゼンテーションにおいては、はじめに、同志社大学の庄子助教より、「スタジアムと昨今のスポーツビジネス」と題しまして、スポーツビジネスの動向、スポーツを取り囲む環境、京都スタジアムで想定される新たなスポーツビジネスの可能性等についてご紹介いただきました。

続いて、茨城県立カシマサッカースタジアムの萩原副所長より、「カシマスタジアムにおけるスタジアム運営の取り組み」と題しまして、カシマスタジアムの設立経緯や、カシマスタジアムの取り組み事例として、稼働率の高い芝管理やスポーツクリニック等を通じた地域医療・健康事業への貢献等の先進的な取り組みや、新たなビジネス展開等についてご紹介いただきました。

龍谷大学の青山教授より、「京都スタジアムを含む周辺エリアにおけるエリアマネジメント」として、エリアマネジメントの概要やエリアマネジメントの先進事例及び、国内のエリアマネジメントの動向をご説明いただくとともに、亀岡でのエリアマネジメントを想定したまちづくりについてご紹介いただきました。

京都府の山本理事より、「京都スタジアム（仮称）の運営」と題し、京都スタジアムを交流拠点とする亀岡市エリアのスポーツ・観光産業のポテンシャルについてご紹介いただいたうえで、京都スタジアムにおけるスタジアム運営の基本的な考え方や、運営スキームの概要、今後の事業スケジュール等についてご説明いただきました。

第2部は「スタジアムを核としたまちづくりと今後の運営計画について」をテーマとして、パネルディスカッションをおこないました。

まず、話題提供として、PwC アドバイザリー合同会社の片山より、コンセッションや指定管理といった官民連携手法についてご説明するとともに、先行事例も交えながら、スタジアム運営事業の採算性や、官民連携の多様な事業スキーム例について説明を行いました。

その後、①スタジアムの経営・運営について、②スタジアム周辺との連携について、

③まちづくりとしての連携について等のトピックについてパネルディスカッションを行いました。

(主な意見)

① スタジアムの経営・運営について

- 鹿島アントラーズが指定管理事業への参画を判断した理由としては、もともとクラブからスタジアムへの使用料として1億円強程度支払っていたが、指定管理者となることで、逆に指定管理料をもらうことにより、外部に支払っていたお金を内部で回せるようになったことが、一つの大きな判断要因である。また、設備増強等もそれまでは施設管理側にお願いしていたところが、クラブの判断でできるようになったところも利点として大きい。(カシマ：萩原副所長)
- スタジアム運営の中では、設備管理業務がクラブでは経験がなかったが、新日鉄住金のグループ会社であるため、ノウハウを有した関連子会社に再委託をしたり、人材を派遣してもらうことにより、業務を適切に遂行できた。(カシマ：萩原副所長)
- スタジアムの経営・運営としては、当クラブとしてはこれまでのJリーグの試合興行の経験があったため、試合運営は問題なく実施できたが、Jリーグ以外の利用をどのようにするかが課題であった。例えば撮影での利用も多いのだが、予約が突発的に入ったり、日程を抑えていてもドタキャンされることもあるため、それらの調整をどのようにするか等も難しい。(カシマ：萩原副所長)
- カシマスタジアムでの利用調整としては、Jリーグの日程が1月下旬に発表されるが、その際に、茨城県と茨城県サッカー協会と日程調整を行う。もともとの施設の趣旨から、天皇杯の茨城県の決勝や高校総体でも使用される。Jリーグとその他の試合日程がかち合う際にも、基本的にはJリーグを優先していただいている。(カシマ：萩原副所長)
- 大学スポーツの改革が全国的に進められているが、関西では2018年4月からKCAAという大学スポーツをとりまとめる組織が全国に先駆けて発足する。大学スポーツについて、従来あった、「する」、「支える」の他に、「観る」、という機能を加え、大学スポーツの観客を増やそうという取り組みが始まっている。京都スタジアムとどういう連携ができるかという点について、KCAAとしても注目しているところである。(同志社大学：庄子先生)
- 大会のバックアップ施設等の観点から、どうしても公共施設は設置者がバラバラで連携が限定的ではあるため、使用者としては利用がしづらい状況もあると思う。施設を有効に利活用いただくためにも、今後は広域的な公共スポ

ーツ施設の連携体制についても、関係者と協議し課題として取り組んでいくべきと考えている。(京都府：山本理事)

- スタジアム運営にあたって、県から要望や制約がされることはあるのか？  
(PwC：片山)
- カシマスタジアムの場合、県からはあらかじめ定められている設置管理条例や仕様書にのっとってやってほしいと言われているが、それ以上に制約を受けるということはない。他に、県からは要望として、国際大会の誘致やコンサート実施をしてほしいという話があり、国際大会の誘致についてはサッカー協会と連携して活動を行っている。コンサートについても検討はしているが、会場の日程がその年の1月下旬決まることから、1年以上前から準備を行うコンサートにとっては日程調整期間が短く、なかなか開催が難しい。(カシマ：萩原副所長)
- VIP ルームの権利はすべてクラブが有している。貴賓室(2部屋)と来賓室(4部屋)はスポンサー企業等が接待の場等として利用しているが、すべての試合において全室使用されている。(カシマ：萩原副所長)

## ② スタジアム周辺との連携について

- スタジアム周辺の地域の方との交流については、ウェルネスやビアガーデン事業を通じて、周辺住民の方と日常的に接しているところである。また、カシマスタジアムでは、出店はホームタウン 5 市の商工会の紹介がなければ出店できないような仕組みになっているため、町の酒屋や飲食店が出店してくれている状況である。(カシマ：萩原副所長)
- 以前は都心にあったスタジアム等の集客施設を外に出していった状況であったが、今がそれらを都心に戻ってきているという状況である。アメリカのミネアポリス、シカゴ、サンフランシスコ、サンディエゴにおいては都心に球場をつくり、飲食店等は周辺につくっており、エリアとしての賑わいを創出している。京都スタジアムは亀岡駅前に面しており、南の商店街のつながりがつくれる非常によい立地ではと考えられる。(龍谷大学：青山先生)
- 現在の計画においては、亀岡駅北側の駅前ロータリー前の商業施設を活用し、商店や広場でのイベント等、試合以外での様々な利活用もできるのではと考えている。亀岡駅前のような広域エリアを、良好な環境を維持し続けるのは行政だけではなかなか難しく、エリアマネジメントの取り組みは参考になると考えており、亀岡市とともに検討していきたい。(京都府：山本理事)
- 土地を所有している人たちが組織をつくって、建物建設、資金調達をその団が行い、事業を行っていくことも事業の形としてはありうると考えられる。神戸の震災後の駅前再開発では、そのような形で、行政と地域住民が一緒に

なって駅前用地を使っていくやり方をしていた。(龍谷大学：青山先生)

- 従来の商店街がある南側と新たに開発される北側の連携をどのようにしていくかということが重要であり、亀岡市全体の構想が重要になると考える。(龍谷大学：青山先生)

### ③ 広範囲でのまちづくりとしての連携について

- カシマのホームタウンは 5 市にわたるが、ホームタウン全体で何かを実施する際には、5 市が参加している協議会の中で意思疎通を行い、決定している。また、市民向けのイベントとして、選手が 5 市の小学校を訪問したり、サッカー教室の開催を行っている。(カシマ：萩原副所長)
- 地域密着しているスポーツ団体の例としては、ロサンゼルスドジャースはチームが戦略的に地域密着をしている。マーケティング担当者が、地域の商店や、将来的な観客としての子供にクラブのカレンダーやチームの活動をまとめた冊子を配布する等、草の根マーケティングを積極的に行っていたことが印象的であった。(同志社大学：庄子先生)
- 競技団体の方からジュニアや大学スポーツの試合会場や練習場が不足しているとの話を伺っている。亀岡の特性として水に漬かりやすいというところはあるが、河川改修を進めて、利用できる空間を確保しているところである。そういった地域資源を活用しながら、まちづくりにつなげていきたい(京都府：山本理事)

終了後の参加者へのアンケートにおいては、参加者からは、「エリアマネジメントやスタジアム運営について具体的に聞くことができ、参考になった」「運営スキームが具体化されてきており、イメージがわいた」などの感想をいただきました。

<会場写真>

